

推薦の言葉

私の役割は医学的校正で、何日か全編をチェックしながら内容を読んでみた。本書は消化器科看護に関して、初学者が実践看護を学ぶのにとっても良い内容で、難しい表現がなく実践的で、各疾患について飽きない簡潔さで構成されている。流石、多くの医学MOOK、Bookletを手がけている学研メディカル秀潤社の編集者の実力を知るところとなった。

病院で働くとき各種のマニュアルがあり、これらの遵守が重要になってくる。消化器科看護を行う場合にもさまざまなマニュアルがあり、これは現在大切なことだ。マニュアルは簡潔で正確に書かれていることが大切だが、そのようなマニュアルの規則に至った経緯や考え方に関しては何もわからない。そのため、ただその通り運用してしまうと、危うい場面が出てきてしまう。マニュアルの理解には、一定の医学・看護学の知識が必要だ。

本書には、消化器疾患の看護について基本的・実践的な事柄が要領よく説明されている。みんなと、早く同じレベルに達して一緒に仕事をしていくのに必要な知識が書かれている。新人で消化器科病棟に配属された看護師、少しブランクがあって急に消化器科看護を命じられたベテラン看護師にこの本を手元においてほしい。椅子に座って、寝ころびながら、コーヒーを飲みながら読んでいけば、先輩たちの知識に追いつける。

患者は救急で入院して、または癌で入院して、手術などの処置で元気になって帰っていただくだけではない。現在は、高齢によるフレイル、認知症、介護の問題、お金がない、身寄りがいない、生きていく希望がないなど、解決が困難な問題を抱えている患者が多くいる。だからこそ、医学的・看護学的な知識と学習をしっかり身につけて、専門職として、また、一人のヒトとして患者に笑顔を作れる看護師に。

そんな風な看護師たちと何人も出会っている。

2018年3月

公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院 副院長
安藤 昌之

はじめに

私たちの病院、豊島病院にも毎年多くの新人看護師が就職します。看護師になって初めて働く場所をどこにするかはとても重要です。当院では彼らの意向に沿って配属部署を決めていますが、その希望先の上位にランクされるのが消化器科の病棟です。新人看護婦にとって、内科系志望、外科系志望に関わらず消化器疾患を持つ患者の看護はとても馴染み深く、また、看護師の知識・技術の基本と考えているようです。

しかし、消化器科看護には、検査介助や症状の観察、患者の気持ちを受け止め、不安や疑問を緩和する精神的支援や食事補助・生活習慣の指導のほか、内視鏡的治療、手術療法、化学療法など専門性の高い治療の介助や看護など、多岐にわたります。これらには多くの知識・スキルが必要であり、看護師として本領を発揮できるとてもやりがいのある仕事です。一方、常に入院患者は多く、業務は多忙です。新人看護師にとってはハードルが高い分野であるかもしれません。

「消化器科看護をマスターし、早く自律した看護師になりたい」と一歩を踏み出した新人看護師の皆さんが、ベッドサイドで、あるいは検査室で、ちょっと確認したいと思った時に手軽に手にしていただきたいと考え、本書を作りました。自律した看護師になるには、日々の業務を一つ一つ確実にを行い、知識と経験を積み上げていくことがとても大切です。そのために本書を役立てていただければとても嬉しく思います。

本書は、全て当院の職員が作成したものであり、本書の記載例や薬品名などは当院で使用しているものを紹介しています。実際の業務の際には自院でご使用の製品などに置き換えていただければと思います。

本書の作成にあたって、消化器疾患患者の看護に携わる多くの職員が執筆に関わり、医師の方々にも協力していただきました。改めて、関わっていただいた皆様に深く感謝いたします。

2018年3月

公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院 看護部長
長谷川 和子